

トジ
セネ
アマ

水道施設への導入検討

厚労省 指針示し更新平準化

厚生労働省は、水道施設へのアセットマネジメント導入を推進するため、本格的な検討に乗り出す。水道施設は、高度経済成長期に整備されたものが多く、今後、更新需要の大幅増が予想され

る一方、既存施設に関するデータ収集は不十分で、技術レベルや人員構成も各水道事業体によってまちまち。小規模な事業体などでは更新への対応が遅れる懸念がある。このため厚労省は、効率

的な維持管理や更新時期の平準化、費用の最小化を図るための手法を検討し、ガイドラインなどとして提示していく。

・7兆円。昭和40年代から右肩上がりでストックが増えてきており、これらの維持管理・更新が大きな課題になっている。厚労省の試算では、05年時点の更新需要は0・5兆円超の規模だった

が、30年には1兆円超の規模に拡大すると見込まれる。今後は人口が減少していくため、1人当たりの負担額が将来的には約2・5倍に増加するとい

う。加えて、水道事業者の職員の高年齢化により、10年以内に現在の4割強が退職する見通しで、ハード面や資金面だけではなく、体制面からも早期の対応が必要になっていく。厚労省はこうした現状を踏まえ、更新時期の平準化や費用最小化の手法などを盛り込んだアセットマネジメントのガイドラインをまとめ、小規模自治体向けには、さらに詳細な手引の作成も検討する。

厚労省は、ガイドラインを提示した上で自治体など各水道事業体に計画的な施設更新を要請。定期報告制度や立ち入り検査などを通じ、対応が遅れている水道事業体を指導していく考えだ。